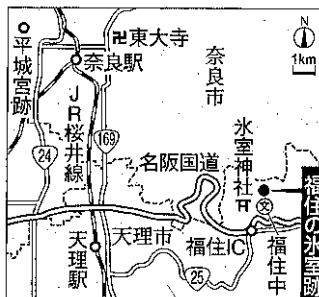


ぶらっと 関西 歴史散歩

奈良 福住の氷室跡

奈良県天理市福住町に古代の貯氷庫「氷室」の跡と伝わる大きな穴がある。標高約500メートル、平城宮跡(奈良市)まで北西に約15キロ。かつては、暑くなるとこの水が都に届けられ、貴族が酒を冷やしたり、かき氷にしたりしたらしい。昨年12月、郷土史勉強会「福住いしえ会」会長で県文化財保護指導



平城宮冷やした貯蔵庫か



氷室跡とみられる大きな穴。福住中学校の裏にある

委員の岡田忠弘さん(76)に氷室跡に案内してもらった。

市立福住中学校の横に氷室跡を示す標識が立つ。そこから中学校の裏へ。杭とロープで作られた手すりを頼りに山道を少し

登ると氷室跡があり、案内板が掲げられていた。穴はすり鉢状で直径10メートル、深さ2メートルほどか。底にはクマザサが茂り、何本も木が立っていた。底に下りた。見上げないと周

囲の景色が目に入らない。けっこう深い。日本書紀の記述ながら、底にススキなどを敷き近くの池から切り出した水を置いて草をかぶせたり、屋根をかけたりにして貯蔵したと岡田さんは考えている。北側に池の跡あり、そこが水の採取場所だ



福住中学校裏の山道脇に立つ案内標識。この先に氷室跡と伝わる穴がある。いずれも奈良県天理市福住町

福住の氷室跡

天理市福住町、奈良市都祁

(76) 地域一帯は古代「いしえ」と呼ばれ、闘鶏、都介とも書く。日本書紀は闘鶏に氷室があると伝え、平安期の法令集は都介は官営氷室の一つとする。1988年、奈良時代